

## 平成26年度第1回 京都市地域コミュニティ活性化推進審議会 摘録

- 1 日時 平成26年11月13日(木) 午後6時30分～8時20分
- 2 場所 こどもみらい館4F 第2研修室
- 3 出席者 委員12名(欠席:長上副会長,日浦委員,宮西委員)  
事務局(平竹文化市民局長,林地域自治推進室長,松村地域づくり推進課長,  
河村地域コミュニティサポート担当課長他)

### 4 概要

- (1) 議題1:京都市地域コミュニティ活性化推進事業の取組状況について
  - 議題2:平成25年度「自治会・町内会アンケート」の結果について
- 事務局から,資料3,資料4及び資料5に基づき,報告を行った。

#### ○諏訪委員

資料4で調査票の回答率が55.9%とあるが,どう評価しているか。

#### ●事務局

一般的な市政の調査では,約3割の回収率である。学区会長,町内会長に回答を依頼しているため,半分を超えた回答率であり,データとしては十分有効な回答数である。

#### ◎立木会長

回答率としては,非常に高く優秀である。回答率を上げるにはコストをかける必要がある。24年度の回答率はどうか。

#### ●事務局

56.5%である。

#### ◎立木会長

今までは,基礎調査であったが今年は少し踏み込んだ調査内容のため,回収率は下がると予想される。ただし,母集団を推定するには十分な数である。

#### ○松本委員

アンケートの内容として高齢化の状況や空家の数など,もう少し具体的な地域の情報を聞いてはどうか。次世代の層を調べるためには地域の年齢層も知る必要がある。

#### ◎立木会長

地域の実情を知ることですね。

#### ●事務局

25年度では年代層を聞いていないが,24年度では60～70台が多い結果となっている。

#### ◎立木会長

住民の年齢層については,国勢調査のデータを分析の際に入れることで今年の解析では,いただいた意見を加味しましょう。

#### ○山本委員

毎年アンケートを答えることの意味が分からないという声がある。毎年同じ様なアンケートを実施しても町内の状況はそう変わらない。

#### ●事務局

地域の半数が輪番で役を回していることは24年度の調査で分かっている。半数以上が毎年変わられるので,コミュニティ活性化推進条例を周知する側面も持たせている。26年度は,立木先生に相談し,安心安全の観点を入れて実施し,啓発効果に加えて,結果をお知らせすることを考えている。また,アンケートは毎年すると決めているわけではない。

### ◎立木会長

町内会長から結果が見えないということをおっしゃられている。今までは基礎調査であり、それが分かったとしてもアンケートをやる意味が見えてこないもので、やりがいがないとおっしゃられているのだろう。

#### ○山本委員

アンケートの結果は、恐らく地域で見られていないのではないかな。

#### ○高橋委員

私もアンケートに回答したことがある。昨年までのアンケートはおもしろくなかったが、今年のアンケートは「地域のこどもの名前（下の名前）を5人以上言える」といった設問があり、回答することで地域の方も気付きがあると思う。26年度の設問は良いと思う。

### ◎立木会長

今の設問は、子育てのしやすいまちとは何かを調べるためのもので、市内で子育て中の市職員にワークショップを行い、その中から出た意見を元に作成したものである。一方、高齢者にはある程度の実感を聞く、という点で設問を作成している。

こんな事したら良い結果に結びつくのではないかなという仮説を立て、自治会・町内会活動が活発になると安心安全や子育てしやすい環境になるということを目に見えたデータで示していく。コミュニティという言葉が全然見えてこない中で、全ての元学区の地図を電子地図上に落としていき、高い、低いといった結果が見えるようになる。前の年に汗をかいた結果が、翌年に見えてくると分かりやすく良いだろう。地域活動を前年度に頑張った結果、今年度の結果はどうなったのか、という因果関係も分かる。

#### ○高橋委員

26年度の結果は是非見てみようと思う。次に何か生まれてくると思う。

### ◎立木会長

やったことが目に見える形で、例えば結果を小冊子に見開きでまとめていこうと思っている。その際は、松本委員にも相談して地域の活性化に資するものにしないといけない。

## (2) 議題3：京都市地域コミュニティ活性化推進計画の点検・見直しについて

事務局から資料6に基づき、京都市地域コミュニティ活性化推進計画の点検・見直しについて説明のうえ、質問、意見等を伺った。

### ◎立木会長

計画の策定から3年経って、点検・見直しをする年に当たっている。何をどう審議するのか見えていないので、検討の方向性を事務局に示していく必要がある。3年前に計画を策定し、活性化の目標の一つが加入率である。加入世帯数が増えているが、世帯数も増えており加入率は微減の状況である。このままでは目標の77%を達成することは難しい状況である。そこで、何をしないといけないのか、メリハリを付けて加入率を高めるにはどうしたらいいのか。これからさらに色々としなければいけないことがある。

#### ○坂本委員

光徳学区で自主防災会の会長として、自治連や学区の自治会、町内会の会議にも出席することがあるが、マンションに対して新たに加入してもらおうといった話になったことがない。その点から自治会長に加入についてももう少しPRできないか。

### ◎立木会長

資料4において、地域コミュニティ活性化推進条例を知っている人は15%、知らなかった人が40%となっており、条例があまり知られていないことが良くわかった。

○高橋委員

自主防災会で防災計画をつくることになり、大きなマンションでは防災計画が出来てきた。自主防災会から始まった取組であるが、自治連と表裏一体の組織であり重要な事である。

◎立木会長

地区の防災計画は、法律に基づいて消防が取組を進めているが、どうやったら自治会に入るのかというアイデアの中に入れてみてほしい。

○高橋委員

マンションの若いお父さんが、伏見区役所が第1避難場所となっているがガラスが多い建物のため、学校に行くとおっしゃられていた。

◎立木会長

区の防災計画は制度が変わっており、各学区で検討することになっている。

○山本委員

避難所運営を各学区で行うことになっている。自治会・町内会に入る・入らないは関係なく、学区上げて行うことになっている。自治会・町内会に入らない人には、支援物資が渡らないと言っているのではどうか。

◎立木会長

京都市は、避難所を地域で運営させることを全市的にやっており、先進的な取組である。避難行動要支援者は地域の力に頼るところであり、障害者、高齢者などへの支援は地域の普段の活動が目に見える活動で出てくることになり、区社協が頑張っていて連携している。目に見える地域活動が大事である。どうしたら地域活動が熱心になるのか、子育ての面からの吉原委員の意見はどうか。

○吉原委員

おやじの会は165の会があり、各学校にある。会長の世代交代の際には、お父さんをどう引っ張ってくるか、という点で関心がある。清泉学区では、第2土曜日にドッジボール大会があり、スポーツ好きなお父さんが知らないお父さんと知り合うという交流を含めて実施している。清泉夏祭りは、各団が出てくるので祭り好きな人をいかに引っ張ってくるか、ということが大事である。最近はマンションが増えており家族世帯は入ってくれるが、単身者は中々関心がなく、入ってもらえない。そういう場合には、スポーツの指導に協力してもらおうという名目で声をかけるが日時やお金のこともあって入ってもらえない。若い世帯を自治会に引っ張ってくるには、例えば会費を安くするとか、周りから声掛けを頻繁に行うとか、交流の機会を持つことも大事である。おやじの会もPTAフェスタなどに模擬店として出るなど頑張っている。

◎立木会長

なぜ加入率が横ばいなのか、という点では年間4000世帯が増えていることがある。中でも単身世帯の増加が一番多く、2010年の国勢調査で核家族や単身世帯が増えているのが分かっている。そういう社会構造であるため、京都においては学生を巻き込むユニークな取組ができれば、審議会において方向性を示していきたい。

見直しについては審議会が責任をもって行い、見直しのスケジュールについては、資料のとおりでよい。自主防災、単身・若者についても方向性に入れられたらよい。

### (3) 議題4：きょうと地域力アップ貢献事業者等表彰制度について

事務局から資料7に基づき、きょうと地域力アップ貢献事業者等表彰制度について説明のうえ、質問、意見等を伺った。

○森委員

あまり積極的でない意見であるが、地域へ積極的に役員が参加し、マンションの管理組合が地域の防災に取り組むことは、何かが違うと思う。地域の方は、役員が毎年変わるのに対してマンションは高齢化しても継続性がある。私はいい形で積極的なのはマンションの方だと思う。

◎立木会長

学区の自主防は取組が続いているし、つながれば良いのではないかな。

○森委員

マンションは違和感が出てくる。高経年になると自主管理している場合が多く、災害になると行方不明にならないかきちんとしている。共有財産を管理するという観点から、災害時は他に頼らないで自分達で、という考え方である。災害が落ち着いたら行政のお世話になる、ということでマンションにおいて完結させようということである。家族構成なども提出されており、お祭り時には、大きな炊き出し訓練もされている。

◎立木会長

次年度に向けて、管理組合も表彰対象に検討してはよいのではないかな。

●事務局

管理組合も表彰対象である。住宅関連事業者と積極的に連携していきたい。

○吉田委員

業界も自薦について議論した。マンションは町内会費は払うが、町内会活動に参加できずに阻害されている。どうしたら学生は地域活動に参加できるのかと議論し、町内会の方に入るような仕組みづくりをしたいと考えている。会社だけではできないので、町内会のマップ作りや防災のマップなどを作成し、学生には地図を渡して町内会へはこの方を訪ねて、と誘導していくことができるのではないかな。

◎立木会長

単身で入ってくる学生などを地域につなぐゲートキーパーとして、また、京都のユニークな取組に学生たちを取り込むパイプ役として事業者側に関心がある。今後、推薦のあり方を検討していただきたい。

(4) まとめ

●事務局

第2回の審議会でも点検・見直しについては、継続審議とさせていただきたい。次回は、計画の総括について年明け2月頃に実施する予定である。

○松本委員

できれば、資料は一部でも事前に送ってもらえると考える時間が持てる。資料が多くなると議論が分かりにくくなる。

○村上委員

今日の話として、加入率を上げていくこともあるが、学区の自治会に入るメリットとして町内のマップをつくる、良さをアピールする、子育てに優しい学区である、とか具体的に取組んでもらわないとダメであり、町内会長と話し合いをするきっかけはあるはずである。その点では、

地域でワークショップを行えば意見が言いやすいのでその際に地域の課題も出し合っていけばよい。地域の売りをアピールする意味では、学区のマップ作りは面白い。

自治会・町内会のアンケートをとる場合には、質問と質問の相関関係を見ても良いのではないか。意識の高いところが手掛かりになるので他の自治会にも参考になるようにしていただくと良い。活性化に向けて進んでいる学区は何をしているのか、その学区の人の意識はどう違うのか、ということ进行调查るとよい。

以上